



カーボベルデの新たなチャレンジ

石川栄子／国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) プロジェクト・アシスタント



カーボベルデ共和国

UNU-IASは、2017年の開発のための持続可能な観光の国際年を記念し、GEOCプロジェクトのアウトリーチの一環として、カーボベルデ共和国の持続可能な観光への取組について取材した。

リゾート地が抱える深刻な環境問題

ポルトガル語で「緑の岬」の意味を持つカーボベルデは、アフリカ大陸の西に位置する島国だ。ヨーロッパとの交流が盛んであった歴史的背景と美しい景観から、観光がGDP比22%を占めるほど大きな産業である一方、水とエネルギー資源不足という問題がある。

「私たち」ができることへ

2017年の持続可能な観光国際年を記念し、カーボベルデのトゥルミーニャの小学校では、50人の小学生を対象に持続可能な観光について学ぶ授業が開始された。きっかけは、同地の女性ジルカ・パイヴァ・ゴンサルヴェス氏が実施する「観光」の啓発講演活動にあった。活動を通じて同氏は、より多くの人や地域と

つながるために2017年からは観光振興を支える「Education for Tourism（観光のための教育）」プロジェクトを立ち上げ、国立公園での課外授業の実施、環境、文化遺産、社会に優しい観光の発展についてのビデオ教材作成、国内各地の離島の紹介、サステナビリティをテーマとした写真展の開催などを実施した。このような観光と自然環境をテーマとする取組は同国初の試みであり、関係者は拡大、現在は大学講師、幼稚園教員、観光を学ぶ学生など24人のメンバーがいる。

環境課題の解決は教育から

プロジェクトを進めるうちに同氏は、国の抱える環境問題の取組と観光による地域振興の連携を目指す新たな実践的な教育が必要だと考え、前述の小学校における持続可能な観光に関する学習機会の提供を開始した。子どもたちはまず、国の豊かな自然の恵みを知り、自然資源の活用と保全による維持継承を考えることで、地域振興に焦点を当てた観光づくりを学ぶ。

同氏は「主に観光とは何か、経済活動としての観光とカーボベルデの自然資源の継続的利用との関係や持続可能な開発目標（SDGs）について教える中で、子どもだけでなく、地域の人々が観光に興味を持ち、環境と自然資源の維持管理について話すようになった」と言う。現在は一つの小学校での実施だが、今後、他校とも連携し拡大していく予定だ。また、「わたしたちの「観光のための教育」の取組は、子どもが将来について考えるきっかけを与え、その経験が彼らの行動に影響するので、国の抱える環境問題の解決に貢献していると言えます。さらに発展させるためには、国内の自然資源の維持管理に取り組む団体と成果共有を行い、協力して活動を広めることが不可欠」とも話す。観光と環境を大切に思う心と双方を支え発展させる意欲は、次世代に継承されるだろう。



自国の主要産業である観光と環境課題について話すジルカ氏